

GXP 49 | 61 | 88

日本語ユーザーガイド



IMPACT
GXP 49 | 61 | 88

日本語ユーザーガイド
www.hookup.co.jp

nektar

目次

イントロダクション	3
同梱内容	3
Impact GXPの機能	3
システム条件	3
接続 / 電源	4
接続の概要	4
電源を入れて始めましょう	5
Nektarine / DAW / MIDIコントロール	6
Nektar DAWインテグレーションとNektarineのダウンロード	6
Cubase LEとRetrologue 2バンドル	6
汎用コントローラーとしての利用	6
キーボード / リアルタイムコントロール	7
オクターブボタン	7
トランスポーズボタン	7
ピッチベンドとモジュレーションホイール	7
アフタータッチ	7
トランスポートボタン / ポテンシオメーター	8
アサインابلMIDIボタン (14)	8
ポテンシオメーター	8
ノートリピート / RGBボタン	9
テンボとシンク	9
リピート機能 - リピーtrate、Aft>Vel、Mod>Vel、アクセント	9
リピート機能 - アクセントインターバル、スウィング、トリガーシンク	10
RGBボタン (14)	10
設定 (Setup) メニュー	11
概要	11
MIDI ccメッセージをコントロールに割り当てる	12
チャンネルブレッシャー / アフタータッチの割り当て	12
バンクとプログラムの割り当て	12
RGB LEDカラー	13
キーボードペロシティカーブ	14
EXPモード (エクスペッションペダルジャック)	14
パニック	14
MIDIアウト	15
MIDIクロック	15
トリガーシンク (10ページを参照)	15
トランスポーズボタンの機能-MIDIチャンネル、プログラムチェンジ、パッチアップ/ダウン	15
MMCトランスポート / Pro Toolsの設定	16
ファクトリーリストア	17
DAW設定ガイド	18
Bitwig、Cubase/Nuendo、Digital Performer、FL Studio、GarageBand、Logic、 Mixcraft 7、Reaper、Reason、Sonar、Studio One、Pro Tools	
Impact GXPにおけるNektarineの使用方法	40
スロットの概要 / プラグインパッチの読み込み	41
プラグインスロットの概要 / プラグインスロットの演奏	42
Patch、Group、Directを使ってパッチを参照する	43

この度は、Nektar Impact GXP コントローラーキーボードをお求め頂き、誠に有難うございます。

Impact GXP シリーズは、しっかりした演奏感を提供する鍵盤、そして多くの主要DAWソフトでお使い頂けるコントロール用ソフトウェアが付属しています。これによって対応するDAWを直感的に扱えるようになり、クリエイティブな作業により集中することができます。Impact GXP を効果的にお使い頂けるよう、このガイドをひと通りご覧ください。

また、Impact GXP シリーズのコントローラーはユーザーカスタマイズが可能で、ご自身でお好みの設定、構成を行うことができます。Impact GXP で音楽制作と演奏をより一層お楽しみください。

同梱内容

Impact GXP をお求め頂くと以下のアイテムが同梱されています：

- Impact GXPコントローラーキーボード本体
- 印刷マニュアル（英語）
- USBケーブル

同梱物が不足、あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡ください。

<https://hookup.co.jp/contact>

Impact GXP の機能

- ベロシティ対応、フルサイズキーボード
- アフタータッチ対応
- ピッチベンドとモジュレーションホイール
- オクターブシフトボタン（アップ/ダウン）
- トランスポーズボタン（アップ/ダウン+その他の機能操作）
- 7つのトランスポートボタン（DAWインテグレーションまたはMIDIアサイナブル用）
- シフトボタン（トランスポートボタンのセカンダリ機能をアクティブにし、合計14の機能にアクセス可能）
- MIDIアサイナブルポテンショメーター
- リピートボタン
- ノートリピートボタン
- 14個のRGB LED ボタン（MIDI、ノートリピート、Nektarine機能用）
- 1基のプッシュエンコーダー（ノートリピート、テンポコントロール、およびNektarine用）
- 電源オン/オフスイッチ
- 9v DC電源ソケット（別売）
- USBポート（USBバス駆動対応）
- MIDI出力端子
- フットスイッチ端子（1/4インチTRS）
- エクスプレッションペダル端子（1/4インチTRS）
- Nektar DAWインテグレーション
- Nektarine プラグインコントロールソフトウェア

システム条件

Impact GXP は、USBクラスコンプライアントのMIDI機器として、Windows 7以降またはMac OS X 10.7以降の環境で扱えます。

*システム条件内であっても、あらゆる環境下での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境については、サポート対象外となります。

*DAWインテグレーションは、ご利用のDAWソフトウェアのシステム条件もあわせてご確認ください。

エクスプレッションペダル端子

1/4インチTRSジャックを持つ標準的なエクスプレッションペダル（別売）を接続します。デフォルトではMIDI CC 11を送信しますが、この割り当てを変更することもできます（p.12参照）。

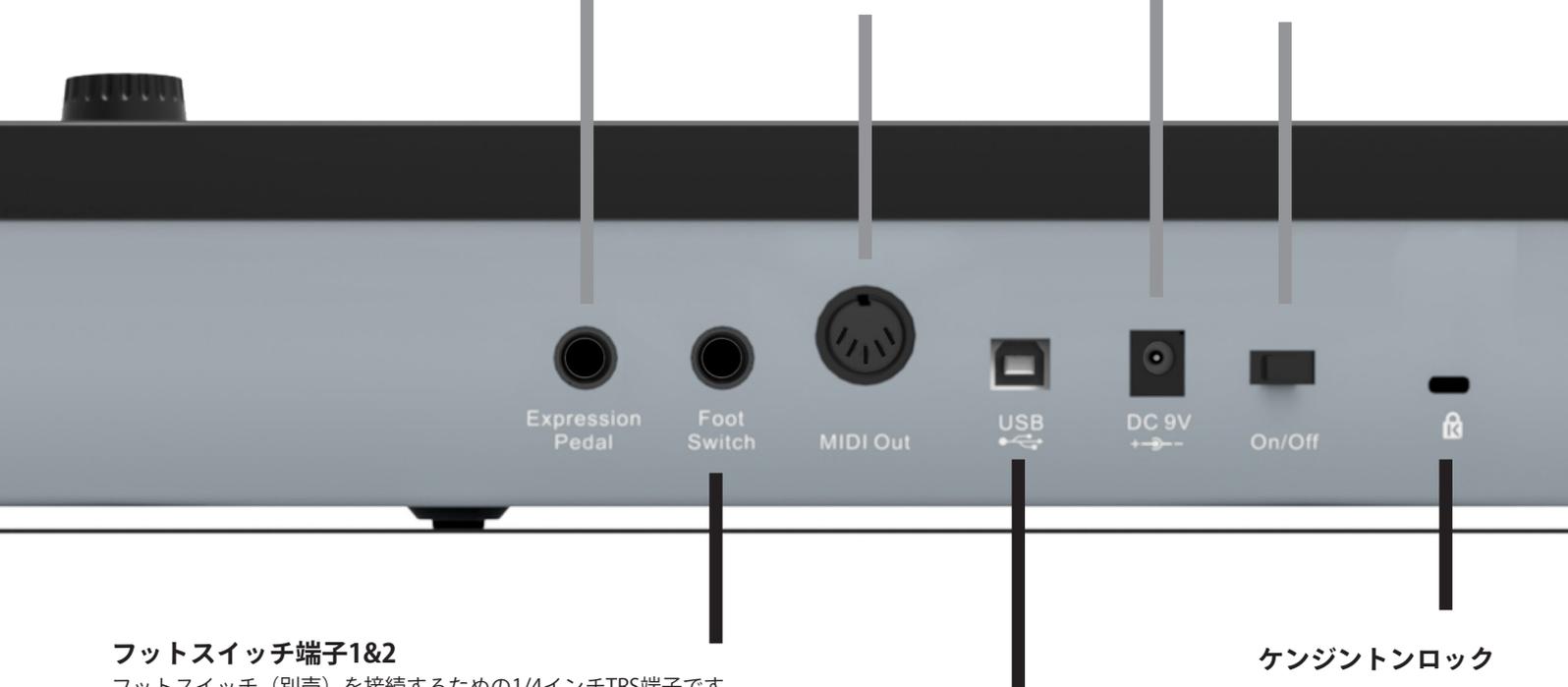
MIDIアウト端子

外部MIDI機器を接続します。本機をUSB MIDIインターフェイスとして使う時、または外部機器を直接MIDIコントロールするのに使用できます。

外部DC電源アダプター端子

- USB経由で電源を供給する場合は不要
- 9V / 600mA、センタープラス
- 2.1mmバレルコネクタ
- 電源アダプターは別売です

電源オン/オフスイッチ



フットスイッチ端子1&2

フットスイッチ（別売）を接続するための1/4インチTRS端子です。極性は電源投入時に自動的に検出され、初期設定ではサスティンをコントロールします。TRSとTSのY字スプリッターケーブル等を使えば、最大で2つのフットスイッチペダルを操作することができます。

USB端子

USBホスト/コンピューターに接続します。USB経由で本体に給電されます。

ケンジントンロック

電源を入れて始めましょう

Impact GXP は、USBクラスコンプライアントに準拠したMIDIデバイスです。特別なドライバーソフトをインストールすることなく、Windows や Mac OS X、iOS（別売の Apple Lightning - USB 3 カメラアダプタが必要）といった機器に接続するだけで認識され、標準的なドライバーで動作します。

接続方法はとても簡単です：

- 付属のUSBケーブルを使用して、Impact GXP とコンピューターを接続します。
- サスティンペダルを使用する場合、Impact GXP のフットスイッチ端子に接続します。
- 電源スイッチをオンにします。



Nektarine / DAW / MIDIコントロール

Impact GXP は、DAW（デジタルオーディオワークステーション）やMIDIデバイス、または付属のNektarine（プラグインコントロールソフトウェア）の操作に使用できます。

手順は非常に簡単ですが、いくつかの設定が必要です。

Nektar DAW インテグレーション

ご利用のDAWソフトが Nektar DAW インテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意しています。ダウンロードの上、インストールしてください。これにより、シンプルな設定で高度なDAWコントロールを実現します。

設定ソフトウェアはご自身のNektarアカウントからダウンロードできます。

最新版のインテグレーションファイルを入手するには、Nektar 社のウェブサイトにて製品登録が必要です(英語でのサービス提供になります):

www.nektartech.com/registration

すでにNektarアカウントをお持ちの場合はサインインを行ってください。

重要なお知らせ：設定に関する情報はウェブページ、あるいはダウンロードして頂いたフォルダ内にPDFファイルとして含まれます。

Cubase LE と Retrologue 2 をバンドル

Impact GXP を登録すると、Steinberg Cubase LE (DAW) と Retrologue 2 (VST3 / AU プラグイン) のライセンスを無料で入手することができます。すでにDAWをお持ちでも、Retrologue 2 を入手するためにライセンスをリクエストするといいいでしょう。

Impact GXP を製品登録していただいた上で、[こちらの手順](#)をご確認ください。

注：ライセンスは新品の Impact GXP を購入した方のみ適用されます（中古には適用されません）。

Impact GXP を汎用のMIDIコントローラーとして利用する場合

Impact GXP は、汎用のMIDIコントローラーキーボードとしてもお使い頂けます。この際、ポテンショメーターは MIDI CC7 を送信してボリュームをコントロールし、RGBボタンはプログラムメッセージ1~10を送信します。

Impact GXP を最大限に活用するには、設定をカスタマイズする必要があります。これらはすべて [Setup] メニューで行うことができます。

Impact GXP のセミウェイト鍵盤はペロシティに対応するため、ダイナミックな演奏が可能です。ご自身の好みや音源に合わせて5種類のペロシティカーブが用意されています。また、これとは別に3段階の固定ペロシティを選ぶことも可能です。

ご自身の演奏スタイルに合うよう、少し時間をかけてデフォルトのペロシティカーブを設定することをお勧めします。音源によってはそれ自体にペロシティカーブの設定が用意されていることもあり、二重の設定によって煩雑にならないよう、まずは Impact GXP のペロシティカーブを設定し、特定の音色に対してタッチの変更が必要な場合は、音源側で設定を行います。Impact GXP のペロシティカーブ設定の手順や詳細については、このガイドの「設定」セクションに記載しています。

オクターブ (Octave) とトランスポーズシフト (Transpose)

鍵盤の左横には、キーボードの音域を変えるOctaveとTransposeシフトボタンが用意されています。

- 左側のOct ▼ ボタンを押すことで、キーボードの音域を1オクターブ下げます。
- 右側のOct ▲ ボタンを押すことで、キーボードの音域を1オクターブ上げます。
- 左側のTranspose ▼ ボタンを押すことで、キーボードの音域を半音下げます。
- 右側のTranspose ▲ ボタンを押すことで、キーボードの音域を半音上げます。
- ボタン操作を繰り返すことで、音域をさらに上下させることができます。

ボタン操作による変更範囲はImpact GXPのモデルによって異なりますが、いずれのモデルもMIDI規格のノートの範囲(127ノート)をすべて網羅します。

オクターブシフトをした際、LEDの色でオクターブの状況を確認できます：

Octave	Color	Octave	Color
0	両方のオクターブボタンが点灯します	+1	+ボタンがオレンジ色に点灯します
-1	-ボタンがオレンジ色に点灯します	+2	+ボタンが緑色に点灯します
-2	-ボタンが緑色に点灯します	+3	+ボタンが赤色に点灯します
-3	-ボタンが赤色に点灯します	+4	+ボタンが黄色に点灯します



Transposeボタンはモデルに関わらず、最大で上下12半音=1オクターブの変更が可能です。Transposeボタンで1オクターブ変更した場合、それに従って Octaveボタンの操作範囲が制限されます。

Transposeボタンに追加機能のコントロールを割り当てることもできます。詳細については、このガイドの「設定」セクションを確認してください。

両方のOctaveボタンを同時に押すと、設定が0にリセットされます。

同様に、両方のTransposeボタンを同時に押すと、設定が0にリセットされます。

ピッチベンドとモジュレーションホイール

OctaveとTransposeボタンの下には2つのホイールが用意されています。左のホイールはピッチベンド、右のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。ピッチベンドホイールはMIDIのピッチベンド情報を操り、演奏ノートの音程を上昇または下降させる奏法に使用します。このホイールはバネによって手を離すとセンターに戻るようになっています。ベンドレンジはこの情報を受け取る音源側で設定を行います。

モジュレーションホイールは、MIDIのコンティニューアスコントローラー(CC)の情報を送信します。一般的にはビブラート(LFO)の深さやフィルターの開閉に使用されます。音源によってはダイナミクスコントロールや、エフェクトの深さを操作する場合もあり、その用途は様々です。通常、このホイールはMIDI規格で定められたModulation(MIDI CC #1)を扱いますが、別のMIDI情報に設定変更することも可能です。いずれのホイールも、デフォルト設定から別のMIDI情報の設定を扱うように変更することが可能で、これらの設定はImpact GXPの電源を落としても保持されます。

アフタータッチ

キーを押して圧力をかけると、キーボードは「チャンネルプレッシャー」とも呼ばれるアフタータッチを送信します。

アフタータッチは、アーティキュレーションを加えたり、ユニークな効果を与える場合に有用です。

アフタータッチに反応するよう受信側を設定する必要がありますが、GXP のアフタータッチは、ほとんどのデバイスが受信できる標準的なMIDI CCメッセージを送信するようにプログラムすることができます。

トランスポートボタン / ポテンシオメーター

トランスポートボタンとナビゲーションボタンは、オクターブボタンとトランスポーズボタンの上にあります。これらのボタンは、Impact GXP の DAW インテグレーションファイルと組み合わせて DAW をコントロールする際に使用します。DAW インテグレーションを使用する場合、Nektar アカウントより必要なファイルをダウンロード、インストールしておいてください。設定方法と機能については後述します。

アサインナブルMIDIボタン (14)

DAW インテグレーションを使わなくても、トランスポート/ナビゲーションボタンを汎用のMIDIボタンとして使用できます。

ここには7つのボタンがあり、押すと各MIDIメッセージを送信します。

左上のShiftボタンを押すと、2つ目の機能の割り当てがアクティブになり、7つのMIDIアサインを追加できます。つまり、合計14個のMIDIボタンにすばやくアクセスできます。

デフォルトのMIDIアサインをすぐに使うことも、必要に応じてそれぞれをプログラムすることも可能です。独自のMIDIメッセージをボタンに割り当てるには、11ページで解説しているようにSetupメニューにアクセスします。

ポテンシオメーター

上部のポテンシオメーターは任意のMIDI CCメッセージを割り当てることができ、デフォルトではMIDI CC7 (ボリューム) を送信するようになっています。割り当てを変更するには、設定メニューにアクセスします。

ポテンシオメーターの下にある2つのLEDは、Nektar DAW インテグレーションでのみ使用されます。

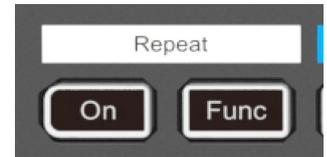


Impact GXP はノートリピート機能を備えており、ユニークなフレーズを作成したり、安定したリズムを演奏させることができます。リピートをオンにすると、演奏するすべてのノートがこのセクションで説明するパラメーターに基づいて繰り返されます。

- リピートのオン/オフを切り替えるには、[On]ボタンを押します。リピートがオンになると、テンポに合わせてボタンが点滅します。

テンポとシンク

リピートシンクが内部クロックに設定されている場合、テンポは30~240BPMの範囲で設定できます。



- [Data / Tempo] エンコーダーを回して、Repeat [On] LEDが希望のテンポで点灯するようにします。
- 特定のテンポ値を入力するには、[Data / Tempo] エンコーダーを押し続けます。LEDボタンは、現在のテンポを1桁ずつ表示します。完了するまで待ちます。
- 数字のLEDボタンを使用して、3桁のテンポ値を入力します。100未満の値は、先頭に0を付けて入力します。入力したテンポは、[Data / Tempo] を離すと設定されます。

リピートをMIDIクロックに同期させる場合は、マスタークロックデバイス（MIDIクロックを送信するDAWやMIDI機器など）でのみテンポを設定できます。Impact GXP は、MIDIクロックが受信されたかどうかを自動検出し、同期オプションを「内部クロック」から「MIDIクロック」に変更します。Setupメニューで、「内部クロック」または「MIDIクロック」のみに反応するよう設定することもできます。

リピート機能

[Func] ボタンを押すとリピート機能が起動します。RGB LEDボタン1~0を押すと、印字されているスタイルでリピート機能を動作させます。



リピートレート

- ボタン1-5を押して、リピートレート（1/4、1/8、1/16、1/32、1/64）を選択します。
- 三連符を選択するには、三連符の値を挟む2つのリピートレートボタンを押します。例えば、1/4 Tにする場合は、[1 - 1/4] と [2 - 1/8] を押します。

アフタータッチ>ベロシティ (Aft>Vel)

Impact GXP のアフタータッチを使用して、リピートするノートのベロシティをコントロールできます。これは持続音を演奏する時に特に便利です。リピート機能が有効な時にこの機能をオンにすると、アフタータッチに割り当てている機能は送信されなくなります。

- [6 - Aft>Vel] を押してオン/オフを切り替えます。

モジュレーションホイール>ベロシティ (Mod>Vel)

アフタータッチ>ベロシティと同様に、モジュレーションホイールを使用してリピートノートのベロシティをコントロールします。モジュレーションホイール>ベロシティとリピート機能が有効な時は、モジュレーションホイールに割り当てたコントロールは機能しません。

- [7 - Mod>Vel] を押してオン/オフを切り替えます。

アクセントベロシティ (Acc)

Accは、演奏されたベロシティ+アクセントベロシティでリピートノートを演奏します。アクセントベロシティは、-50~+50の範囲で10ずつ増加します。0に設定すると、アクセントはベロシティに影響しません。

- [8 - Acc]を押して有効にします。LEDボタン1-5、8、0が点滅し、黄色に点灯します。現在選択されている [Accent Velocity] が黄色に点灯します。
- [1-5] キーを押して、アクセントベロシティを+10~+50に設定します（[1]=+10、[2]=+20、[3]=+30、[4]=+40）。
- [Accent Velocity] にマイナスの値を設定するには、[0] + [1-5] を押したままにします。例：[5] =+50および [0] + [5] =-50。
- アクセントを0にリセットするには、[0] を押します。
- メニューは、選択するとすぐに終了します。

ノートリピート / RGBボタン

アクセントインターバル (Interval)

アクセントを付ける間隔を設定します (2~8)。デフォルトでは、間隔は2に設定されています。これは、2つ置きにアクセント付きの音符が再生されることを意味します。8に設定すると、9音ごとにアクセントが付きます。

- [9-Interval] を押して有効にします。すると、LEDボタン2-9が緑色に点灯します。
- 選択されたインターバルは、選択されたメニューボタン (9) と同様に緑色 (デフォルトでは2) に点灯します。
- LEDボタン2-8を押して選択します。
- 選択するとメニューはすぐに終了します。

スイング (Swing)

スイングは、ノートを1つ置きに、次のノートの近くに移動します。これにより、シャッフルリズムが得られます。

- [0-Swing] を押してアクティブにします。LEDボタン1-5と0がオレンジ色に点灯します。デフォルトでは、Swingは0に設定されているため、ボタン1-5はすべて暗くなっています。
- [1-5] を押して、スイング値を選択します。[1]を選択するとビートが10%移動し、[5]を選択するとビートが50%移動します。
- [0] を押すと、スイング値が0にリセットされます。

トリガーシンク

ノートのリピート方法に関わるトリガーシンクには、5種類のオプションがあります。

ボタン番号	トリガーシンク	動作内容
1	Key 1	ノートをクオンタイズせずにリピート再生します。ユニークなアルペジオのような効果や、人間的なニュアンスを持つ演奏を作るのに使えます。
2	Key 2	Key 1と同様ですが、最初のノートを発音して、すぐに次のノートを発音すると、両方の音がクオンタイズされて、最初のノートと同じタイミングでリピートされます。
3	Beat 8 (Default)	リピートノートが1/8にクオンタイズされます。
4	Beat 12	リピートノートが1/12にクオンタイズされます。
5	Beat 16	リピートノートが1/16にクオンタイズされます。

ここでは、[Trigger Sync] のオプションを選択する手順を説明します。

- [Setup] を押します。ボタンが点灯します。
- キーボードで、「Trigger Sync」というラベルが付いたC#2を押します。RGBボタン1-5が点灯し、現在選択されているTrigger Syncオプションが完全に点灯します。
- 目的のTrigger Syncオプション (1-5) に対応するボタンを押します。選択すると [Setup] が終了し、Trigger Syncオプションが設定されます。

RGB ボタン (14)

2つのRepeatボタンに続く4つのRGBボタンには、Nektarine用のラベルが付いています。4つのボタンと10個の数字ボタン (合計14) は、MIDIメッセージ (プログラム、バンク、MIDI cc) を割り当てることができ、それぞれ13色のカラーオプションのいずれかを表示するように設定できます。MIDIメッセージと色をボタンに割り当てる手順については、「設定」メニューのセクション (次ページから) を参照してください。

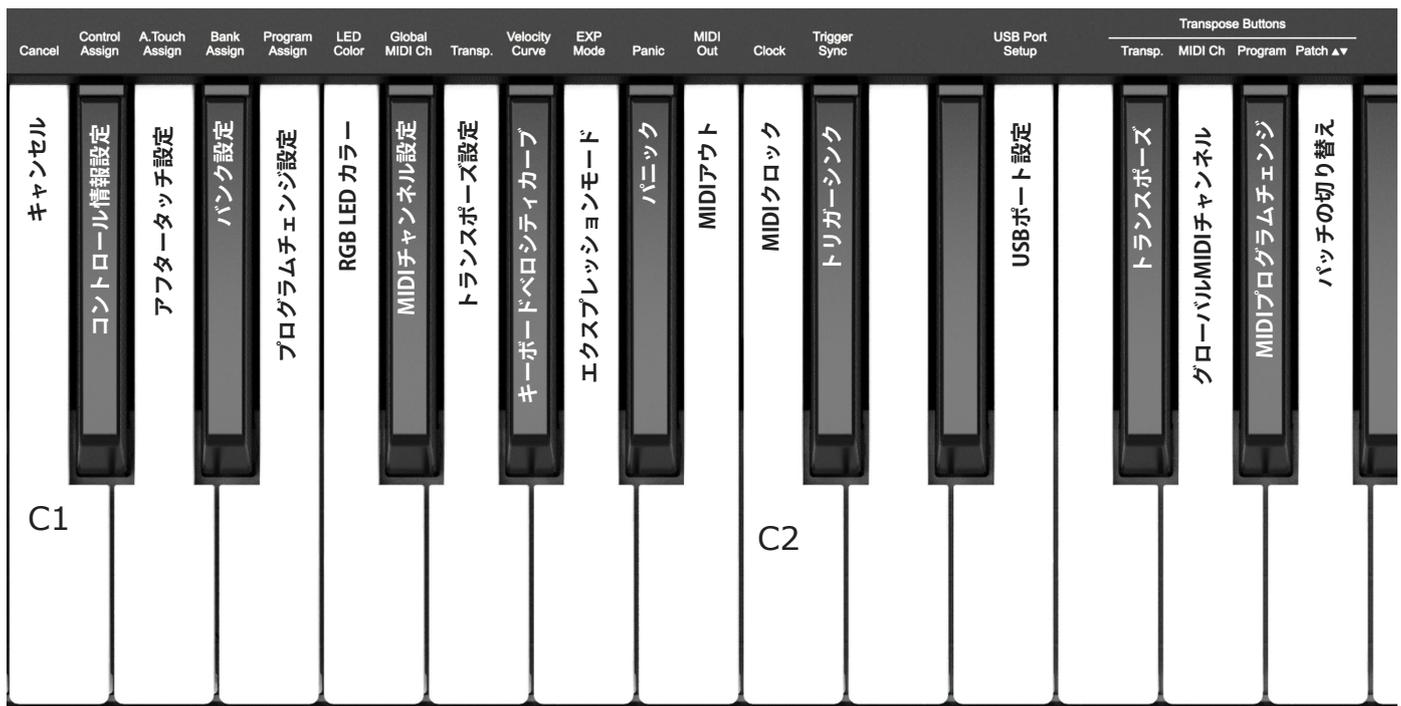
Nektarineを接続すると、14個のRGBボタンすべてがNektarine専用になります。これについては、Nektarineダウンロードパッケージに付属するPDFガイドでも説明されています。

Setupメニューでは、コントロールの割り当て、プリセットの選択と保存、ベロシティカーブの変更など、様々な追加機能にアクセスできます。[Setup]ボタンを押し、パネル上に印字された箇所の鍵盤を操作するとメニューに入れます。その際、キーボードからのMIDIノート信号はミュートされます。

すべての設定はすぐに保存され、個別に管理するプリセットはありません。

下図はメニューと鍵盤の関係を表しています。鍵盤上の日本語 = メニュー概要、英語 = パネル上の印字を表します。

Impact GXPのモデルによって、メニュー鍵盤の位置は異なります。メニューの箇所は実際にImpact GXP本体のパネル印字をご確認ください。



メニューは大きく2つのグループに分けられます。C#2にまたがる最初のグループは、一般的な設定メニューにアクセスします。これらのメニューはアクセスすると待機状態となり、実際に操作をすることで設定が行われます。もし、設定をせずに中止をしたい場合、Cancelキー (C1) を押します。メニューを終了するには再度Setupボタンを押します (多くのメニューでは設定後、自動で設定メニューが解除されます)。

2番目のメニューグループはF#2 - A2に位置し、トランスポーズボタンのオプションを設定します。

各メニューの詳細はこの後のページで解説します。ただし、これらの解説はMIDIに関してご理解頂いていることを前提にしています。もしMIDIの役割や、用語、基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定をされる前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。例えば、ご利用のソフトウェアのMIDIに関する記述を確認されることは、用語や役割など、必要な知識を知るためのきっかけとして、有効な手段のひとつです。

設定のキャンセル - Cancel - 鍵盤:C1

Enterキー (C6) で確定する前の、設定した値をキャンセルする際に使用します。

コントロール情報 (CC) 設定 - Assign a MIDI cc Message to a Control : C#1

MIDI CC メッセージは、モジュレーションホイール、エクスプレッションペダル、2つのフットスイッチのいずれか、アフタータッチ、ポテンシオメーター、そして28個のMIDIボタンのいずれかに割り当て可能です (DAWまたはNektarineのインテグレーションに使用しない場合)。割り当ては、電源の再投入時に保存されます。従って、次にキーボードの電源を入れた時、そのままの状態を設定されます。

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青く点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのC#1を押して、Control Assignを選択します。
- コントロールを動かすか押して、MIDI CCメッセージを割り当てるコントロールを選択します。
- 0-9の番号キーを使って、MIDI CCの値を0-127の範囲で入力します。
- [Enter] キー (C6) を押して変更を確定し、設定を終了します。

* 割り当て用のアフタータッチストリップの選択:手順3でアフタータッチを選択するには、機能や番号が割り当てられていない、D2などのキーを押します。

チャンネルプレッシャー/アフタータッチの設定 - Channel Pressure/AfterTouch Assign : D1

アフタータッチはコントロールであり、メッセージタイプでもあります。「アフタータッチメッセージタイプ」もしくは「チャンネルプレッシャー」とも呼ばれ、キーボードのアフタータッチ以外に、モジュレーションホイールやエクスプレッションペダル、ポテンシオメーターによっても送信することができます。

手順は他のコントロールの割り当てと同様です:

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのD1キーを押して、「A.Touch Assign」を選択します。
- コントロールを動かして選択します。
- [Enter]キー (C6) を押して変更を確定し、セットアップを終了します。

* アフタータッチコントロールを選択するには、上部に印字のないキーを弾き、AfterTouchをトリガーする時と同じようにキーを押します。

バンクとプログラムチェンジの設定 - Bank and Program Assign

プログラムメッセージは、受信側のプログラム (プリセットまたはバッチ) を変更するために使用されます。このタイプのメッセージは通常、MIDIハードウェアで使用されますが、場合によってはプラグインでサウンドを変更するためにも使用されます。

28個のアサイン可能なボタンはそれぞれ、MIDIプログラムチェンジメッセージとバンクメッセージの両方を送信するようにプログラムすることができます (DAWインテグレーションに使用しない場合)。

これを正しく行うには、受信側の製品のマニュアルを参照してください。

プログラムチェンジ設定 - Program Assign : E1

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのE1キーを押して、[Program Assign] (プログラムの割り当て) を選択します。
- 割り当て可能なMIDIボタンのいずれかを押します。
- G4 - B5の間にある白の数字キーを使用して、プログラムの値を入力します。
- [Enter]キー (C6) を押して変更を確定し、設定を終了します。

バンク設定 - Bank Assign : D#1

Bank Assignメッセージは、プログラムメッセージを割り当てたのと同じボタンにプログラムすることができます。バンクメッセージが最初に送信され、次にプログラムメッセージが送信されて、受信側デバイスで最初にバンクが変更され、次にプログラムが送信されます。

上記手順2でD#1キーを選択してBank Assignを選択する以外は、プログラムチェンジ設定と手順は同じです。次に、Bank MSB/LSBメッセージを合計6桁で入力する必要があります。MSBが11でLSBが120の場合は、手順4で011120と入力します。

RGB LED カラー : F1

14個のRGB LEDボタンは、12色のいずれかで点灯するようにプログラムするか、オフに設定できます (Nektarineを使用していない場合)。

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのF1キーを押して、[LED Color] を選択します。
- 14個のRGBボタンのいずれかを押しして選択します。
- [Data/Tempo] エンコーダーを回してカラーオプションをスクロールするか、下のチャートを参照し、0-9のラベルが付いた白いキーを押してカラー値を入力します。
- [Enter] キー (C6) を押しして変更を確定し、設定を終了します。

Color	No	Color	No	Color	No	Color	No
Off	0	橙	4	青緑	8	ホワイト	12
ピンク	1	イエロー	5	ブルー	9		
レッド	2	ライム	6	ラベンダー	10		
オレンジ	3	グリーン	7	パープル	11		

MIDIチャンネル設定 - Global MIDI Channel : F#1

コントロールとキーボードは、MIDIチャンネル1-16のメッセージを送信します。MIDIチャンネルを変更するには、次の操作を行います：

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのF#1キーを押して、[Global MIDI Channel] を選択します。Setupボタンが点滅します。
- 0-9のラベルが付いた白いキーを使用して、MIDIチャンネルの値 (1から16) を入力します。
- [Enter] キー (C6) を押しして変更を確定し、設定を終了します。

トランスポーズ設定 -Transpose : G1

トランスポーズ値は、Setupメニューで設定できます。これは、Transpose ボタンが他の機能に割り当てられている場合や、値を素早く変更する必要がある場合に適しています。

- [Setup]ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのG1キーを押します。Setupボタンが点滅します。
- 任意のトランスポーズ値を、0-9のラベルが付いた白の数字キーを使用して入力します。最初に0を入力すると負のトランスポーズ設定 (-1の場合は01) になり、通常の値を入力すると正のトランスポーズ設定 (例：+1の場合は1) になります。
- [Enter] (C5) を押します。これにより設定がただちに変更され、設定が終了します。

トランスポーズを0にリセットするには、手順3で00と入力します。

設定 (Setup) メニュー

キーボードベロシティカーブ - Keyboard Velocity Curves : G#1

Impact GXPの鍵盤は、演奏タッチに合わせて5種類のベロシティカーブと3つの固定ベロシティを選ぶことができます。

下表は各設定に関する情報です:

名称	設定内容	ボタン番号
Soft	最もダイナミック(強いタッチが必要)なカーブです。	1
Normal	中間よりも高いベロシティが強調される一般的なカーブです。	2
Hard1	Normalよりも約10%高いベロシティ値を出力するカーブです。 柔らかいタッチで簡単に高いベロシティを出力することができます。	3
Hard 2	より高いベロシティにフォーカスした、Hard1より10%高いベロシティ値を出力するカーブです。	4
Linear	打鍵通りのベロシティをそのまま出力します。	5
127 Fixed	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値:127(最大)を出力します。	6
100 Fixed	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値:100を出力します。	7
64 Fixed	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値:64(中間値)を出力します。	8

ベロシティカーブの設定手順は以下の通りです:

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- 「Velocity Curve」と印字された、キーボードのG#1キーを押します。RGBボタン1-8が点灯します。
- 目的のベロシティ設定に対応するRGBボタンを押します。ベロシティカーブの設定が即座に変更され、[設定] が終了します。

エクスプレッションモード - EXP Mode : A1

Impact GXPIは、Nektar NX-Pをはじめ、市販されているほとんどのエクスプレッションペダルをサポートしています。

モードオプション	エクスプレッションペダルの種類
1	Korg, M-Audio, Moog (pos. "Std"), Nektar (pos. 1), Roland
2	M-audio (pos. "Other"), Moog (pos. "Other"), Nektar (pos. 2), Yamaha

エクスプレッションペダルのタイプの選び方は以下の通りです。

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- 「EXP Mode」と印字された、キーボードのA1キーを押します。RGBボタン1-2が点灯します。
- 目的のエクスプレッションペダルの種類に対応するRGBボタンを押します。EXPモードの設定が直ちに变更され、設定が終了します。

パニック(オールノートオフ) - Panic : A#1

パニック機能は、すべてのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に使用します。この機能は、音源が鳴りっぱなしになるなどのトラブルの際に使用します。

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのA#1キーを押して、Panicを選択します。リセットはすぐに実行され、Impact GXPは設定モードを終了します。

MIDIアウト - MIDI Out : B1

MIDI出力端子は、Impact GXPから直接MIDIメッセージを送信する場合や、Impact GXPをUSB MIDIインターフェイスとして使い、間接的にMIDIメッセージを送信する場合に使用します。デフォルトでは、MIDI出力端子はImpact GXPからのMIDIメッセージを直接送信します。USB MIDIインターフェイスとして使用するには、以下の手順に従ってください：

- [Setup] ボタンを押す。LEDボタンが青色で点灯し、設定がアクティブであることを示します。
- 「MIDI Out」と印字されたB1キーを押します。RGBボタン1-2が点灯します。
- 2を押して「MIDI Out via USB」を選びます。これにより、MIDI出力設定が即座に変更され、設定が終了します。

設定を元に戻すには上記を繰り返し、手順3で1を押します。

MIDIクロック - MIDI Clock : C2

Impact GXPのリピート機能は、USB経由で接続されたDAWや、MIDIデバイスから送信されるMIDIクロックと同期することができます。Impact GXPは、MIDIクロックを受信すると自動的にMIDIクロックに同期し、MIDIクロックが受信されなくなると内部クロック (Internal) に戻ります。

ここでは、Impact GXPを内部クロックまたはMIDIクロックに固定するための設定手順を紹介します：

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- 「MIDI Clock」と印字されたC2キーを押します。RGBボタン1-3が点灯します。
- [1] = Internal、[2] = MIDI clock、[3] = Autoの3つから、希望する設定のRGBボタンを押します。これにより、MIDIクロックの設定が即座に変更され、設定が終了します。

トリガーシンク - Trigger Sync

トリガーシンクについては、10ページの「リピート」のセクションで説明しています。

トランスポーズボタンの機能の変更

トランスポーズボタンをNektar DAWインテグレーションと組み合わせて使用すると、トランスポーズ、グローバルMIDIチャンネル、MIDIプログラムチェンジ、パッチの切り替えをコントロールすることができます。

トランスポーズボタンに機能を割り当てる手順は、以下の通りです：

- [Setup] ボタンを押す。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- 割り当てたい機能に対応する、キーボードのキー (F#2 - A2) を押します。
- [Enter] を押します (C6)。これにより変更が決定し、設定が終了します。

キー	機能	値の範囲
F#2	トランスポーズ	-/+ 12
G2	グローバルMIDIチャンネル	1-16
G#2	MIDIプログラムチェンジ	0-127
A2	Nektar DAWインテグレーションのパッチの切り替え	Relative

MMCトランスポート / Pro Toolsの設定

MMCトランスポートコントロール

Nektar DAWインテグレーションファイルは、トランスポートボタンとナビゲーションボタンをDAWの各機能に自動的にマップします。非対応のDAWでもMIDI Machine Controlを使用してトランスポートを操作できたり、Pro Toolsであれば専用の設定を使用できる場合があります。

MIDI Machine Controlメッセージを送信するための設定手順は以下の通りです：

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- キーボードのE2キーを押します。
- 数字キー3を押します。
- [Enter] を押します (C6)。これにより変更が決定し、設定が終了します。

DAWがMMCを受信するように設定されている場合、Impact GXPからトランスポート機能进行操作できます。

ボタンは右の表に従って割り当てられます。

MMCは多くのDAWやデバイスでサポートされていますが、Nektar DAWインテグレーションに対応しているDAWには必要ありません。

ボタン	機能
Click	No
<< (Rewind)	Yes
>> (Forward)	Yes
Cycle / Loop	No
Stop	Yes
Play	Yes
Record	Yes

Pro Toolsの設定

Pro Tools用にImpact GXPを設定するには、まずImpact GXPのUSB Port Setup Modeを4に設定する必要があります。

- [Setup] ボタンを押します。LEDボタンが青色で点灯し、設定が有効であることを示します。
- 「USB Port Setup」と印字されたE2キーを押します。RGBボタン0、1-4が点灯します。
- [4] を押します。これにより設定が直ちに変更され、設定が終了します。

Pro ToolsでPeripheralsに移動し、MIDI Controllerタブを選択します。次に以下の設定を選択します：

Type: 'M-Audio Keyboard'
Receive From: 'Impact GXP MIDI 2' in OSX / MIDIIN2 (IMPACT GXP) in Windows.
Send To: 'Impact GXP MIDI 2' in OSX / MIDIOUT2 (IMPACT GXP) in Windows.

- [OK] をクリックして終了します。

Impact GXPがPro Toolsで使えるように設定されました。ボタンの機能は次の通りです：

トランスポート	ループボタン	[Shift] 有効 / 青色に点灯
[Click]: 割り当てなし	[Loop]+[Play]: ループ再生	S1: 選択中のトラックをミュート
[<<]: 巻き戻し	[Loop]+[Record]: ループレコーディング	S2: 選択中のトラックをソロ
[>>]: 早送り	[Loop]+[Stop]: 元に戻す	<Track: 前のトラックを選択
[Loop]: 他のボタンと一緒に使用します。 右の欄を見てください	[Loop]+[<<]: 先頭に移動	Track>: 次のトラックを選択
[Stop]: 停止	[Loop]+[>>]: 終わりに移動	<Patch: 8トラック前に戻る
[Play]: 再生		Patch>: 8トラック先に進む
[Record]: 録音		

以下の操作でImpact GXPを工場出荷時の状態に戻すことができます:

- Impact GXPの電源がオフになっていることを確認してください。
- 2つのオクターブボタン ([Octave up] と [Octave down]) を押しながら、Impact GXPの電源を投入します。

この操作は、最初から設定をし直す際に便利です。

DAW設定ガイド - Bitwig

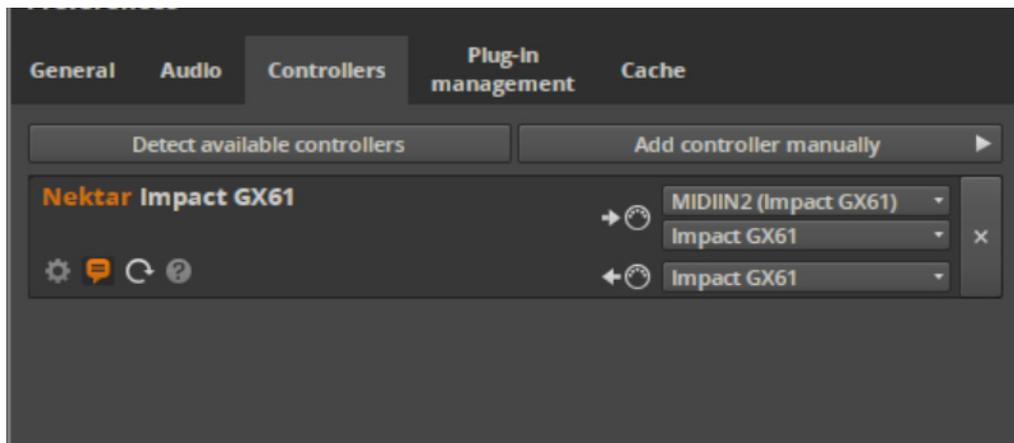
Impact GXPはBitwigインテグレーションファイルで、Bitwig Studio及びBitwig 8-Trackと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。また、Linux環境でも扱うことが可能です。

設定

Impact GXPとBitwig Studio、Bitwig 8-Trackの設定は以下の通りです：

- まず、Bitwigのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはBitwig自体の動作に必要なファイルをインストールする為の必須の作業です。
- 次にBitwigを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_Bitwig_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Bitwigを起動し、OptionsメニューからPreferencesを選び、Controllersタブを開きます。
- “Detect available controllers”をクリックし、自動検知でImpact GXPを設定します。
- 完了したら、“OK”ボタンをクリックし、デバイス設定を終了します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。



インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Bitwig StudioまたはBitwig 8-Trackで以下の操作が行えます。

下表はBitwigの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーレーンを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	デバイスチェーンを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	ブラウザーを開く・閉じる*	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	選択デバイスのパッチ一つ前を選ぶ	Shift + ▶	オーバーダブモードランチャー (Launcher)
●	録音	Patch ▶	選択デバイスのパッチ一つ次を選ぶ	Shift + ●	オーバーダブモードアレンジャー (Arranger)

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Bitwigのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Bitwigのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Bitwigのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXPではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

Impact GXPはCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のCubaseと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ここではCubaseで解説していますが、Nuendoでも同様の設定し、ご利用いただけます。

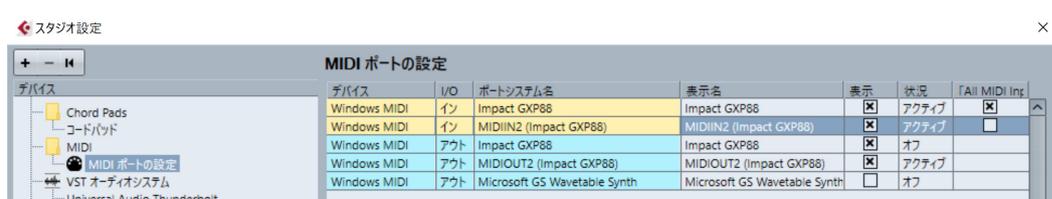
設定

Impact GXPとCubaseの設定は以下の通りです：

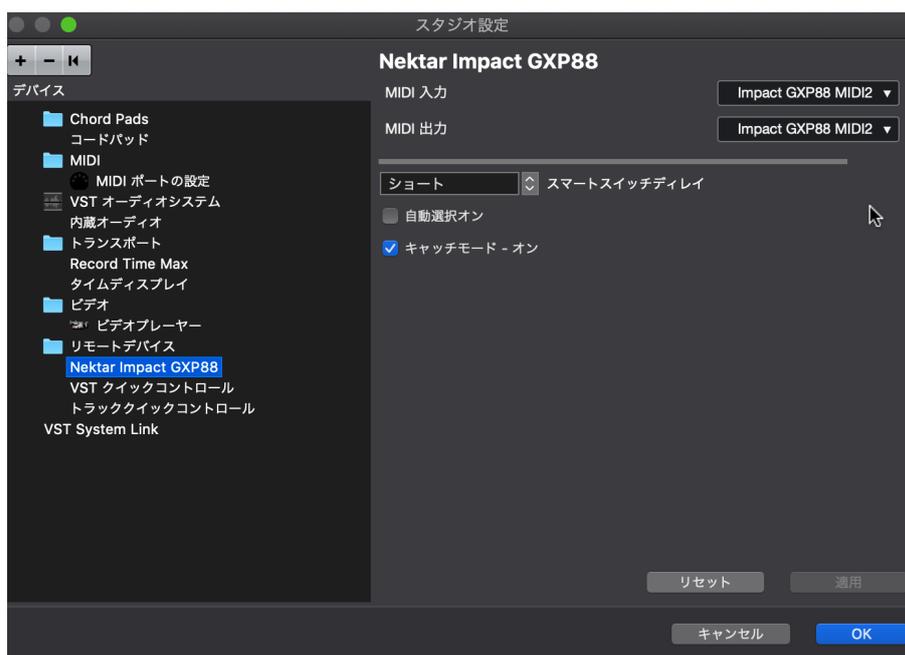
- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_Steinberg_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Cubaseを起動し、デバイス > デバイス設定 > MIDIポートの設定を開きます。
- Impactの二番目の入力ポート (Windows = "MIDIIN2 (Impact GXP)"、Mac = "Impact GXP Port 2") で、"In 'All' MIDI"欄のチェックを外します。(Xがない状態)
- Impactがリモートデバイスの箇所にリストに表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、"OK"ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo と Impact GXP

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、CubaseまたはNuendoで以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーの表示・非表示	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	チャンネルストリップを開く・閉じる	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次*	Shift + ●	オーバーダブモード

*パッチ切替機能は、対応しないVSTインストゥルメントが存在します。殆どのSteinbergプラグインは対応していますが、すべてのメーカーがこの規格に準拠しているわけではございませんのでまずは、標準装備のプラグインでご確認ください。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Cubaseのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Cubaseのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Cubaseのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Digital Performer

Impact GXPIはMOTUインテグレーションファイルで、バージョン8以降のDigital Performerと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

Impact GXPとDigital Performerの設定は以下の通りです：

- Digital Performerを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_MOTU_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン(アウトポートの右横)をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Nektar Impact GXPを選択します。
- “ユニット”の箇所はMulti MIDIを設定します。
- “インポートポート”に二番目のポート (Windows = MIDIIN2 (Impact GXP)、Mac = Impact GXP Port 2-16) を設定します。
- “アウトポートポート”は一番目のポート (Windows = Impact GXP49、Mac = Impact GXP49 Port 1) を設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows

コントロールサーフェス



OS X



DAW設定ガイド - Digital Performer と Impact GXP

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Digital Performerで以下の操作が行えます。

下表はDigital Performerの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドウ(Undo)
⏮	巻戻し 再操作で停止	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	早送り 再操作で停止	S3	設定なし	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル(ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択 一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択 一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメント パッチ切替:一つ前	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメント パッチ切替:一つ次	Shift + ●	オーバーダブモード

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Digital Performerのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

メモ: Digital Performerではインストゥルメントのボリュームパラメーターの操作は出来ませんが、MIDI CC#7を送信し、ボリュームのMIDIコントロールが可能です。この場合、ボリューム情報はインストゥルメントトラックのボリュームオートメーションではなく、MIDIトラックのMIDI CCとして記録されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Digital Performerのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Digital Performerのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXPではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - FL Studio

Impact GPIはバージョン11.2以降のFL Studioと連動し、Windows 7以降の環境で動作します。もし、Controller Typeのリストで"Nektar Impact Series"が表示されない場合は、FL Studioをアップデートしてください。

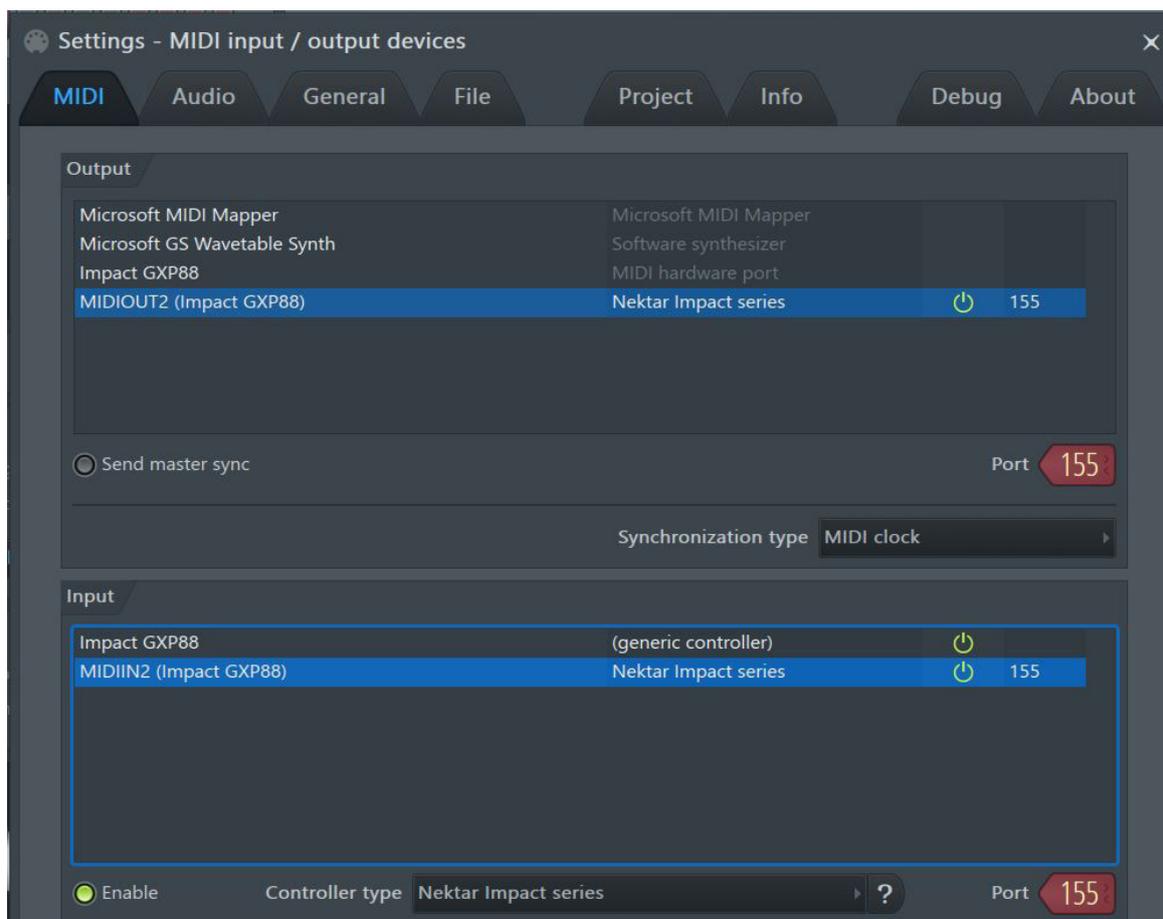
設定

Impact GXPとCubaseの設定は以下の通りです：

- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- Impact GXPのポートを画面例の通りに設定します。ポートが表示されない場合は画面下の"Rescan devices"をクリックします。
- Impact GXPの出力ポートを"155"に設定します。
- Impact GXPの入力ポートを有効 (Enable) にし、Controller Typeを“(generic controller)”に設定します。
- 二番目の入力ポート：MIDIIN2 (Impact GXP49)も有効にし、Controller Typeを"Nektar Impact series"*、portを"155"に設定します。
- 画面例の通りに設定したら、画面を閉じて、MIDI設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうか確認をします。

*もし、“Nektar Impact series”がController Typeのリストに無い場合、FL Studioをアップデート (もしくはアップグレード) する必要があります。



インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、FL Studioで以下の操作が行えます。

下表はFL Studioの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	設定なし
◀◀	巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀◀	低速再生
▶▶	早送り	S3	設定なし	Shift + ▶▶	高速再生
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	ミキサートラック選択一つ前	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	ミキサートラック選択一つ次	Shift + ■	アンドゥ(Undo)
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	チャンネル選択一つ前	Shift + ▶	メトロノームオン・オフ
●	録音	Patch ▶	チャンネル選択一つ次	Shift + ●	前面(フォーカス)以外の画面を閉じる

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、FL Studioのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - GarageBand

Impact GXPのAppleインテグレーションはバージョン6以降のGarageBandと連動します。

設定

Impact GXPとGarageBandの設定は以下の通りです：

- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

以上で設定完了です。

GARAGEBANDの操作

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、GarageBandで以下の操作が行えます。

下表はGarageBandの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ライブラリを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または継続	S2	Apple Loopsを開く・閉じる	Shift + ◀◀	ループを前に
▶▶	早送り、1小節または継続	S3	スマートコントロールを開く・閉じる	Shift + ▶▶	ループを先に
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ上	Shift + ↺	左ループポイントを設定*
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ下	Shift + ■	右ループポイントを設定*
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前	Shift + ▶	アルペジエーターオン・オフ
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次	Shift + ●	設定なし

*ループ/サイクルエリアが既に設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、GarageBandのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、GarageBandのマスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

Impact GXPのAppleインテグレーションはバージョン8以降のLogicと連動し、OS X 10.6以降の環境で動作します。

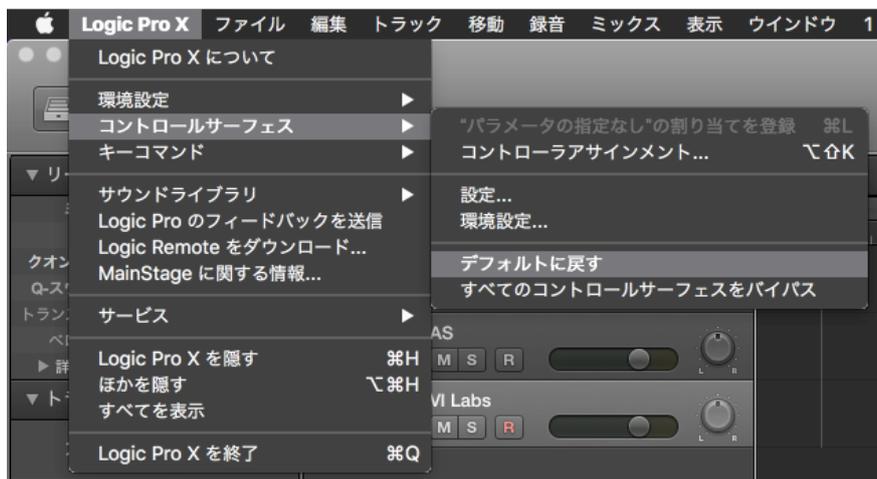
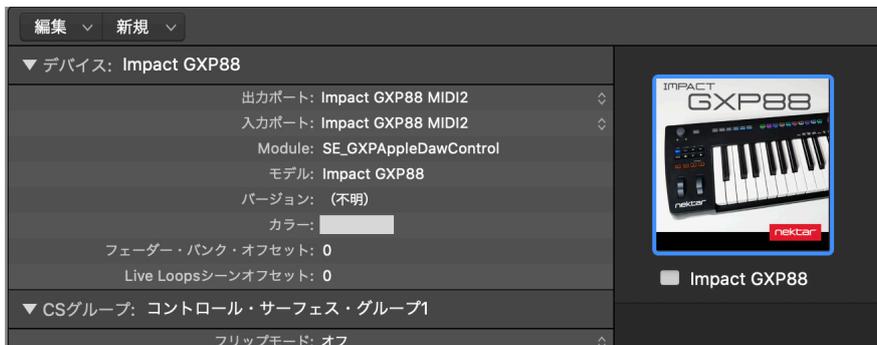
設定

Impact GXPとGarageBandの設定は以下の通りです：

- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Logicを起動し、プロジェクト、そして最低でもトラックを一つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの画面を表示します。画像例のように表示されていれば、正しくインストールされたことになりますので、問題がなければ画面を閉じます。
- 念のために“Logic Pro”メニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”を選択し、実行します。

これで設定完了です。

*デフォルトに戻す操作は、Impact GXPをLogic以外のインテグレーション対応DAWを使用した後に、Logicで使用する場合に行う必要があります。



DAW設定ガイド - Logic と Impact GXP

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Logicで以下の操作が行えます。

下表はLogicの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または継続	S2	ソフトウェア音源を開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または継続	S3	スマートコントロールを開く・閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前*	Shift + ▶	アルペジエーターオン・オフ
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの録音待機

*パッチとはLogicのAUユーザプリセットのことで、最低でも二つ以上プリセットがLogicに保存されている必要があります

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Logicのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

Impact GXP と Acoustica Mixcraft 7 を連動させるには以下の手順に従います：

- ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Nektar Impact GXP49-61.csv を展開し、以下の場所に置きます。
c:\ProgramData\Acoustica\Mixcraft\control-surfaces
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Mixcraft を起動し、Mixcraft メニューから Mix/MIDI Control Surface で Impact GXP がコントロールサーフェスとして表示されているかを確認します。

正しく見えていれば、設定は完了です。

MIXCRAFT の操作

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Mixcraftで以下の操作が行えます。

下表はMixcraftの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	メトロノームのオン・オフ	S1	アンドゥ(Undo)	Shift + Click	設定なし
◀◀	巻戻し	S2	前のマーカーから再生	Shift + ◀◀	設定なし
▶▶	早送り	S3	次のマーカーから再生	Shift + ▶▶	設定なし
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	設定なし
▶	再生	◀ Patch	縮小表示	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	拡大表示	Shift + ●	設定なし

ボリューム操作

ロータリーノブはマスター音量調節に使用します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Reaper

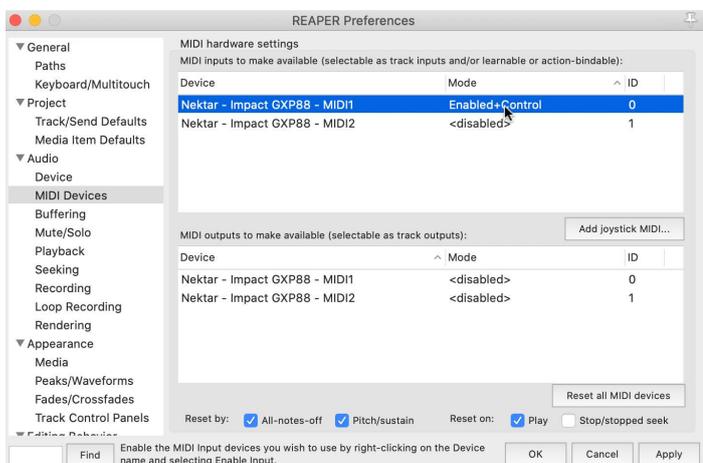
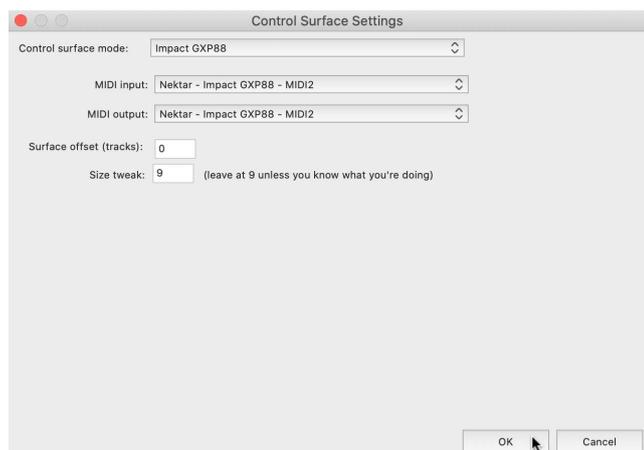
Impact GXPはReaperインテグレーションファイルで、バージョン4.59以降のReaperと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

Impact GXPとReaperの設定は以下の通りです：

- まず、Reaperのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールするための必須の作業です。
- 次にReaperを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Impact_GXP_Reaper_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reaperを起動し、OptionsメニューからPreferencesを選択してControl Surfacesを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でImpactを”Control surface mode”のリストから選び、ReaperがImpactを検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認し、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 次に Preferences > Audio/MIDI Devicesで、Impactのポート1を有効にします。このモードは“Enable+Control”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。



インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Reaperで以下の操作が行えます。

下表はReaperの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または持続	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または持続	S3	チャンネルストリップを開く・閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントプリセット切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントプリセット切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの録音待機(アーム)

* プリセットパッチはReaperのユーザープリセットを使用します。最低でも2つのプリセットをReaperで保存する必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、ミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Reason

Impact GXPはCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のReasonと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

Impact GXPとReasonの設定は以下の通りです：

- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_Reason_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にImpact GXPが表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を終了します。

これで設定は完了です。



手動設定

ReasonでImpactのMIDIポートを手動設定をする場合、以下の手順に従います：

- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開き、“追加”ボタンを押します。
- Impact GXPを追加し、画像例の通りにポートを設定します。



インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Reasonで以下の操作が行えます。

下表はReasonの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	選択トラックのミュート	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または持続	S2	選択トラックのソロ	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または持続	S3	トラックオートメーションオン	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ上	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で左ロケーターに移動	Track ▶	トラック選択一つ下	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	デバイスパッチ切替：一つ前	Shift + ▶	プリカウントオン・オフ
●	録音	Patch ▶	デバイスパッチ切替：一つ次	Shift + ●	録音クオンタイズオン・オフ

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラック上のデバイス音量調節に使用します。

ソフトテイクオーバー

通常、ミキサートラックボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXPではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

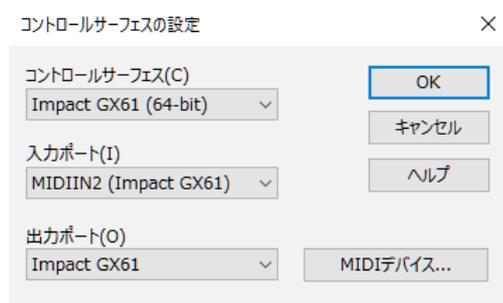
DAW設定ガイド - Sonar

Impact GPIはバージョン8.5以降のSonarと連動し、Windows 7以降の環境で動作します。

設定

Impact GXPとCakewalk Sonarの設定は以下の通りです：

- Sonarをを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_Cakewalk_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Sonarを起動し、編集 > 環境設定 > MIDIのデバイスをクリックし設定を表示します。
- 入力の項目でIMPACTとMIDIIN2 (IMPACT)、出力の項目でIMPACTにチェックが入っていることを確認し、“適用”ボタンを押します。
- 続けてSonarの (編集 > 環境設定 > MIDIの) コントロールサーフェスをクリックし設定を表示します。
- 画面右上の黄色の星アイコンをクリックし、コントローラー/サーフェス設定画面を開き、次の通りに設定します：
 コントローラー/サーフェス：Impact
 入力ポート：MIDIIN2 (IMPACT)
 出力ポート：IMPACT
- 設定完了したら、OKボタンをクリックして画面を閉じます。
- コントロールサーフェスが正しく設定されると画面のように表示されます。問題なければ“適用”ボタンを押し、そして環境設定画面を閉じます。



これで設定は完了です。



インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Sonarで以下の操作が行えます。

下表はSonarの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く、 二回押しで閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く 二回押しで閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	設定なし	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択 一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択 一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生	◀ Patch	ラック内のインストゥル メント切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	ラック内のインストゥル メント切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機(アーム)

*インストゥルメント画面を切替えには、Patchボタンでまずインストゥルメントトラックをナビゲートする必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Sonarのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Studio One

Impact GXPはPresonusインテグレーションファイルで、バージョン3以降のStudio Oneと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ただし、最新バージョンにアップデートすることをオススメしています。

設定

Impact GXPとPresonus Studio Oneの設定は以下の通りです：

- Studio Oneを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_Presonus_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXPをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Studio Oneを起動し、“環境設定”から“外部デバイス”タブを開きます。ここで画面上にImpactのデバイスが2つ見えていれば、“OK”ボタンをクリックします。
- 新しいプロジェクトの作成、または既存のプロジェクトを開きます。
- Impact上の再生ボタンを押してStudio Oneのシーケンスが連動するかどうを確認します。問題なければ、設定は終了です。



トラブルシューティング:もし、画面上にImpact GXPが1つ、あるいは何も無い場合、以下の手順に従って手動で設定をします：

- “環境設定”から“外部デバイス”タブを開きます。
- “追加”ボタンをクリックして手動でデバイスを追加します。

インストール、設定を完了したらImpact GXPを使用して、Studio Oneで以下の操作が行えます。

下表はStudio Oneの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーの表示・非表示	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	ブラウザーの表示・非表示	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で再生	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前	Shift + ▶	プリカウント
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次	Shift + ●	クオンタイズモード

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定

Nektar DAWインテグレーションファイルによって、Impactのトランスポートコントロールは自動でDAWのトランスポートの操作に割り当てられます。もし、ご利用のDAWがこれに対応しない場合、ImpactとDAW側でMIDI Machine Control (MMC) の設定をすることで、トランスポートボタンで操作することが可能です。

以下の操作で、Impact GXPはMIDI Machine Control (MMC) 情報を扱うことが可能になります：

- Setupボタンを押し、ボタンのLEDが青く点灯していることを確認します。
- Impact GXPの鍵盤:E2を押します。
- 数字キー"3"を押します。

これで、Impact GXPは下表の通りのMMC情報を送信することができます：

ボタン	機能
Click	設定なし
<< (Rewind)	巻戻し
>> (Forward)	早送り
Cycle/Loop	設定なし
Stop	停止
Play	再生
Record	録音

Avid Pro Tools では他のDAWと異なり、インテグレーションファイルを使用しません。Impact GXP からトランスポート操作をする場合、Impact GXP と Pro Tools の両方で、MMCの設定を行います。

Impact GXP のMMCに関する設定については、前ページをご覧ください。

Pro Tools の設定手順は、以下の通りです：

- Pro Tools を起動し、“設定”メニューから“ペリフェラル”を選択し、MIDIコントローラータブのクリックで設定画面を開きます。
- MIDIコントローラ画面で次の通りに設定します：
 - タイプ = M-Audio Keyboard
 - 受信元 = Impact … MIDI 2 (OSX)、MIDI IN2 (IMPACT …) [エミュレート] (Windows)
 - 送信先 = Impact … MIDI 1 (OSX)、IMPACT … [エミュレート] (Windows)
- 設定完了後、“OK”ボタンをクリックして画面を閉じます。

設定が完了すると以下の通りアクセスできます：

トランスポートボタン

- Impactの“Shift”ボタンをオフにした場合、以下の機能となります：
 - クリック：設定なし
 - <<：巻戻し
 - >>：早送り
 - Loop：他のボタンとの併用で追加機能にアクセスします。
 - Stop：停止
 - Play：再生開始
 - Record：録音開始
- ループボタンは次の追加機能にアクセスします：
 - Loop+Play：ループ再生
 - Loop+Record：ループレコーディング
 - Loop+Stop：アンドゥ
 - Loop+RW：プロジェクトの頭に戻る
 - Loop+FF：プロジェクトの終端に移動
 - *メモ：ループボタン自体は何も機能しません。
- Shiftボタンをオンにした場合、以下の機能となります：
 - S1 (<<)：選択トラックのミュート
 - S2 (>>)：選択トラックのソロ
 - <Track (Loop)：前のトラックを選択
 - Track> (Stop)：次のトラックを選択
 - <Patch (Play)：8トラック分、前にジャンプ
 - Patch> (Record)：8トラック分、後ろにジャンプ

Impact GXP における Nektarine の使用方法

Nektarine は、VST、VST3、AU インストゥルメントプラグインの広範なライブラリ管理を可能にするホストプラグインです。また、優れたブラウザを備えているため、容易にパッチを探し出すことができます。Nektarine 自体は、VST、VST3、AU、AAX に対応しています。つまり、どの DAW を使っている場合でも、お使いのインストゥルメントプラグインと変わらないブラウジング体験が得られます。

Impact GXP による Nektarine の操作は、プラグインサウンドの切り替えと、既存のプラグインインストゥルメントサウンドへのアクセスにフォーカスしています。Nektarine を使うと以下のことが行えます：

- 最大16種類のプラグインをホストし、それらを1つのマルチパッチとして演奏可能。
- 各スロットのノートゾーン範囲を作成し、キーボード上でスロットをレイヤー/スプリットすることが可能。
- 単一のプラグイン（スロット）を演奏し、[1-0] ボタンを押してリアルタイムで切り替えが可能。
- Nektarine ブラウザでパッチの読み込みが可能。
- Group Tags（グループタグ）を選択して、必要なプラグインパッチにすばやくアクセス可能。
- Impact GXP から、特定のパッチまたはマルチパッチの呼び出しが可能。

起動 / 実行

1. Nektarine をインストールしていない場合は、まず www.nektartech.com でログインをし、My Account タブからダウンロードします。
2. Nektarine のインストール後、DAW を起動し、Nektarine が正しくスキャンされることを確認します。
3. DAW 内でインストゥルメントトラックを作成し、プラグインとして Nektarine をインサートします。
4. Nektarine の画面を開き、Settings タブでプラグインをスキャンします。
5. Impact GXP が Nektarine とどう連携するかについては、次のページをお読みください。

Nektarine をスタンドアロンまたはDAWのプラグインとして起動すると、Impact GXP のRGB LEDボタンが更新され、[Slot] ボタンが白色に点灯します。ほとんどの場合、Impact GXP は白色のLEDで「選択」を示します。

[Plugin Slot]

デフォルトでは [Slot] が選択され、[1] が点灯します。



- Nektarine のSlot 1の下にある [+] アイコンをクリックし、スロットを追加します。
- スロットが作成されると [1-0] ボタンが点灯し、各ボタンがスロットを表します。[Patch]、[Group]、[Direct] ボタンも、選択されているスロットと同じ色に変わります。次の例では、スロット3が選択されています。



スロットにプラグインを読み込む

Nektarine でプラグインをスキャンすると、システム上のすべてのプラグインにパッチが適用でき、これらのパッチは Impact GXP の各スロットに読み込むことができます。結果を予測できるように整理する方法は後ほど説明しますが、この例では意味があるかないかに関わらず、使用可能なプラグインを読み込みます。

- Impact GXPで [Patch] を押します。ボタンが白く点灯して選択されていることを示し、[Slot] の選択が解除されます。
- ボタン [1-0] も現在のスロットの色で点灯します。10個以上のパッチがある場合、10個のボタンすべてが点灯します。[1-0] ボタンのいずれかを押して、プラグインパッチを読み込みます。上の画像に示した例だと、プラグインパッチがSlot 3に読み込まれます。
- 別のボタン [1-0] を押して、読み込んだプラグインパッチの代わりに別のプラグインパッチを読み込みます。プラグインによっては読み込みに時間がかかるものがあります。処理が完了するまでお待ちください。

別のスロットにプラグインを読み込む

プラグインを別のスロットに読み込むには、まず現在のスロット選択（画像の例ではスロット3）を変更する必要があります。

- Impact GXP の [Slot] を押したままにします。現在選択されているスロットのボタンカラーが白色に更新されます。
- [Slot] を押したまま、点灯しているボタンのうち、白色以外の [1-0] ボタンを押します（以下の例では [Slot] + [2] を押してSlot 2を選択します）。
- もう一度 [Patch] を押します。
- いずれかの [1-0] ボタンを押して、プラグインパッチをSlot 2に読み込みます。
- この手順を繰り返して、作成したすべてのスロットにプラグインをインサートします。



プラグインスロットの概要 / プラグインスロットの演奏

単独 / 複数のプラグインスロットを演奏する

前述の手順によって、キーボードを弾くと、選択しているプラグインのサウンドで演奏する状態となっています。Nektarineでは、任意のプラグインスロットを、単独、もしくはレイヤーして演奏することも可能です。

- [Slot] を押してから、[1-0]のいずれかを押します。選択したボタンのみが完全に点灯し、その他のボタンは淡色で点灯します。完全に点灯しているボタンに対応したスロットのサウンドを演奏できます。
- 別の [1-0] を押すと、別のスロットが選択されます。以前選択したスロットではなく、新たに押したスロットのサウンドを演奏できます。
- 任意の [1-0] を同時に押す（一方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押す）と、2つのボタンが完全に点灯します。この状態でキーボードを弾くと、2つのスロットのサウンドをレイヤーして演奏することができます。
- さらに [1-0] ボタンを同時に押すことで、より多くのスロットをレイヤーし、演奏できるようになります。
- [Slot] をダブルクリックするように押すと、すべてのスロットを同時に演奏できます。

演奏しながら新しいプラグインスロットに切り替える

演奏をしながらプラグインスロットを選択することにより、Nektarine に読み込まれたプラグインサウンドを瞬時に切り替えていくことができます。

- キーボードでノートを演奏し、サスティンペダルを使用します。
- 演奏中にプラグインスロットの選択を変更します。
- キーボードから手を離し、サスティンペダルを放します。
- もう一度キーボードを演奏します。

キーボードスプリット / ベロシティゾーン

Nektarine では、各プラグインスロットごとに、演奏可能なMIDIノートの範囲を設定することができます。

- Nektarine のキーボードアイコンをクリックします。
- 下限から上限までの範囲を設定するには、マウスで左右のハンドルを操作するか、現在の値をダブルクリックし、コンピューターのキーボードで新しい値を直接入力します。
- スロットごとにベロシティの範囲を設定することもできます。

これらの設定は Impact GXP から行うことはできません。

設定を保存する

念のため、作業中の設定状態を随時保存しておくことをお勧めします。Nektarine のすべての設定はマルチパッチに保存されるため、いつでも呼び出せます。DAWでNektarineを使用している場合は、DAWの曲にすべての設定が保存されるので、マルチパッチを保存する必要はありません。ただし、曲を保存することを忘れないでください。

マルチパッチを保存する

- Nektarine で [Browser] タブを選択します。
- [Multi] ボタンをクリックします。
- [Save Currently Loaded Multi-Patch] というディスクアイコンをクリックします。
- 名前を入力し、“OK”をクリックします。

同じ手順で、いつでもマルチパッチを変更して上書きすることができます。しかし、意図せずに設定を上書きしてもバックアップはないことを覚えておいてください。

パッチとマルチパッチ

パッチとマルチパッチについて何度か触れましたが、その違いは何でしょうか？

パッチには、1つのプラグインのすべての設定が含まれています。マルチパッチには、Nektarine にホストされているすべてのプラグインの設定と、Nektarine 自身の設定が含まれます。つまり、Nektarine のスロットには個別のパッチをロードすることができますが、インストールメントプラグインと Nektarine の設定の組み合わせを保存するには、マルチパッチを保存しなければなりません。

Nektarine のブラウザは、プラグインパッチの保存やライブラリの構築を簡単に行えます。パッチのライブラリが増えるにつれ、それらを整理するための優れたツールが必要になりますが、Nektarine は数多のパッチを明快地処理できるよう設計されています。

Impact GXP 本体からは、Nektarine のブラウザのように完璧なブラウジングはできません。ただし、タググループを選択して、特定のパッチを直接読み込むように Impact GXP を設定することはできます。この機能については以下で説明します。

Nektarine ブラウザの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

Retrologue 2 用のパッチをインポートする

Impact GXP には、Steinberg Cubase LE バンドルが付属しています。このバンドルには、Retrologue 2 シンセサイザー（VST 3 / AU プラグイン）も含まれています。すでに Retrologue 2 がインストールされている場合は、Nektarine で VST 3 プラグインをスキャンしてください。

Nektarine 用の Retrologue 2 パッチを、[こちらから](#)ダウンロードすることができます（VST3のみ。このパッチはAU版では機能しません）。

ダウンロードしたファイルをインポートするには、次の手順を実行します：

1. [Browser] タブをクリックします。
2. 青色の [Import Patches] アイコンをクリックします。
3. 開いたウィンドウで、ダウンロードした.nekファイルを見つけます。
4. .nekファイルを選択し、“Open”をクリックします。
5. ダイアログボックスで“OK”をクリックし、インポートを実行します。
6. インポートが完了すると、関連するタグとともにパッチがブラウザに表示されます。

各パッチには、Retrologue のタグと一致するよう、すでにタグ付けされています。タグは Nektarine のブラウザでタググループの一部にすることができるため、Retrologue のファクトリーサウンドライブラリ全体にすぐにアクセスできるほか、Impact GXP からパッチを見つけ、参照する場合の良い例にもなります。タググループを設定して呼び出す方法については、次のセクションで説明します。

[Patch] : Nektarineパッチを読み込む

Nektarineパッチは [1-0] ボタンを使用するか、エンコーダーでパッチのリストをスクロールして、パッチメニューを読み込むことができます。

手順は以下の通りです：

- [Patch] を押すか、白色LEDの点灯をチェックして有効であることを確認します。
- [1-0] ボタンを押して、現在のブラウザリストの最初の10個のパッチを読み込みます。
- [Data encoder] を回してリストをスクロールすると、さらに多くのパッチにアクセスできます。この時、コンピュータの画面にブラウザが表示されている必要があります。
- [Encoder push button] を押し、選択したパッチを読み込みます。

これは、パッチが数個しか存在しない場合に適切に機能しますが、数千個ものパッチが存在する場合は、ブラウザタグを使用して、それらを管理可能な数にすばやく絞り込むことが重要です。タグは Nektarine のブラウザでスロットごとに個別に設定でき、レートを使って、簡単に見つけられるようにすることも可能です。

Patch、Group、Directを使ってパッチを参照する

[Group] パッチのフィルタリング

Tag Group とは、Nektarine ブラウザで [Tag Group] をクリックする、あるいは Impact GXP によって有効化できる、プリセットまたはタグのグループを指します。これを設定することで、ブラウザを素早くフィルタリングし、必要なパッチを探し出しやすくします。

Nektarine を最初に起動した時点では Tag Group は存在しません。

注：Retrologue 2 ファクトリーパッチライブラリをインポートすると、タグ付けされたパッチがいくつか入ります。そうでない場合に Tag Groupを試すには、いくつかのパッチにタグを付ける必要があります。

Tag Group を作成する方法は以下の通りです：

- ・ カテゴリーパネルでタグ（あるいは任意のタグの組み合わせ）を選択します。
- ・ Tag Group パネルで、[+]アイコンをクリックしてタグを追加します。
- ・ 名前を入力してください。名前の前に[1]、[2]と付けて、Impact GXP本体のどのボタンでTag Groupを選択するかを決定します。青い印字を参照し、例えば [6] Pads と入力すると、パッドパッチのみが使用可能になります。
- ・ [OK]をクリックして保存します。

作成すると、[Group]ボタンが点灯します。

- ・ [Group]を押して選択します。
- ・ 点灯している[1-0]ボタンを押してTag Groupを選択します。ブラウザは、現在の選択がタグ付けられたパッチのみを利用できるようになります。
- ・ 選択した[1-0]ボタン（白）をもう一度押してTag Groupの選択を解除します。これですべてのパッチがブラウザで再び利用可能になります。

Tag Groupの編集

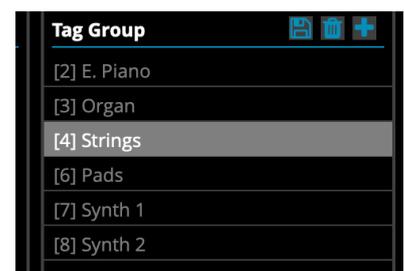
パッチの量が増えるにつれ、さらなるフィルタリングが必要になってくるでしょう。

独自のユーザータグを作成することは、特定の曲やプロジェクトもしくはお気に入りのコアセットのためにパッチを整理する優れた方法です。追加されたタグは、使いたいパッチに適用させる必要があります。これについては、[Nektarine ブラウザ](#)に関するドキュメントで、より詳しく知ることができます。

新しいタグは既存の Tag Group に追加できるため、例えば Impact GXP から Tag Group を選択する際にフィルタリングの一部として使えます。

Tag Groupの編集は次のように行います：

- ・ リストのTag Groupをクリックして選択します。
- ・ コンピューターのキーボードで、Tag Groupに追加したいタグをCtrl/Commandキーを押しながらクリックして選択します。同じ手順で、より多くのタグを選択可能です。
- ・ 同様に削除したいタグをCtrl/Commandキーを押しながらクリックし、選択を解除します。



レーティングを利用してパッチをソートする

ブラウザに適切なパッチが含まれているのに、思うような順序で表示されない...そんな時は Nektarine のレーティング（評価）機能が役立ちます。パッチ名の左側にあるレーティングインジケータを押して、各パッチにレーティングを与えることができます。デフォルトでは、すべてのパッチは等しく50%にレーティングされています。

- ・ いくつかのパッチのレーティングを変更して、リストの一番上に必要なパッチがくるようにします。すぐには変化しないので注意してください。
- ・ [Rating] ヘッダーをクリックして、パッチの並びをアルファベット順からレーティングの降順に変更します。

ソートの順番を変えると、[Patch] の選択時に読み込まれるパッチが変わります。

[Direct]

Directモードは、Nektarineで特定のパッチを読み込む際に使用します。一度設定すると、ブラウザがどのように設定されているかに関わらず、ボタンを使ってパッチを読み込むことができます。

このモードの設定は、マルチパッチがDAWソング/プロジェクトの一部として保存されます。つまり、読み込まれるマルチパッチに応じて、ボタンは異なるパッチを読み込むことができます。

もし、Nektarineを起動する度に毎回、同じようにボタンを設定したいなら、「Default」という名のマルチパッチを読み込んで、Directボタンに設定してください。完了したら、ディスクアイコンをクリックして、現在読み込まれているマルチパッチを保存します。ここでは、[1-0]ボタンを割り当てて、パッチを読み込む方法を説明します:

- Nektarine ブラウザでパッチを一度クリックして選択します。パッチはグレーで強調されるか、すでに読み込まれている場合はアウトラインがグレーで表示されます。
- Impact GXPで [Direct] を押しながら、[1-0] ボタンを押して割り当てます。
- 割り当てられたボタンが点灯し、パッチが割り当てられたことを示します。ボタン下の青い印字を見れば、各ボタンが何に読み込まれたかを識別することができます。
- マルチパッチを保存して設定を保存するか、DAWのソング/プロジェクトを保存してください。

[Direct] ボタンはマルチパッチの読み込みにも使用できます。Impact GXPの [Direct] 割り当てはマルチパッチ（もしくはDAWソング）に保存され、他の場所には保存されないため、これは少し複雑になります。

もしマルチパッチ1をマルチパッチ2に読み込んだり、その逆を行う場合は、マルチパッチ1はマルチパッチ2を読み込むために割り当てられた [Direct] ボタンと一緒に、マルチパッチ2はマルチパッチ1を読み込むために割り当てられた [Direct] ボタンと一緒に保存する必要があります。

Impact GXPからNektarineのインスタンスを有効にする

Impact GXP からコントロール可能な Nektarine のインスタンスは1つです。DAWの異なるトラックに Nektarine が複数立ち上がっている場合、Impact GXP でコントロールされていないインスタンスは、画面右上のインスタンスインジケータが黄色の境界線を示します。現在コントロールされている Nektarine のインスタンスインジケータは完全な黄色となります。

Impact GXP でコントロールするために、どのインスタンスを有効にするかを決定する方法は2つあります。

- Nektarine の画面でインスタンスインジケータをクリックして、インスタンスを有効にします。
- コントロールしたい Nektarine が立ち上がっているトラックを選択し、Impact GXP の [Shift]キー + [キーボードのいずれかのノート] を押します。ノートを受信すると、選択されているトラックの Nektarine インスタンスが有効になります。

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar